

高齢者など要援護者を支援する体制を構築

～白岡ニュータウン自主防災会(白岡市)～



組織概要

- 創設:平成8年
- 加入世帯数:1,456世帯
- 特徴:戸建て住宅が中心の大規模なニュータウン



活動内容

1 総合防災訓練には多くの住民が参加し、様々な訓練を実施

毎年年1回の総合防災訓練には平均350人が参加し、10種目程度の訓練を実施。

2 高齢者などの要援護者を支援する体制を構築

手上げ方式で要援護者を募集・登録し、近隣者4～5名を支援者としてあらかじめ指定し、(要援護者32人、支援者211人) 支援者役が要援護者役を搬送する模擬訓練を行っている。

3 子供を参加させる工夫や、自主的に訓練に参加するための仕組み

地域の子供に防災啓発ポスターや標語作成を依頼し、訓練時に掲示することで、子供を防災の担い手として育成。また、自ら率先して訓練に取り組むことを促す「スタンプラリー方式」を導入。

ポイント

避難行動に支援が必要な要援護者を支援するため支援者をあらかじめ指定し搬送訓練を行っているほか、子供を訓練に参加させる工夫や、参加者の自主的な取組を促す仕組みを取り入れている。



白岡ニュータウン自主防災会に聞きました！

Q 多くの住民に訓練に参加してもらうためには、どうしたらよいのか教えてください。

A 毎年4月開催の総会資料に訓練日程を明記し、訓練2ヶ月前には、回覧・ケーブルテレビ放映・ポスター（子ども達が応募してくれたポスター）を掲示するなど、全世帯に周知しています。

Q 高齢者などの要援護者を支援する支援者をあらかじめ決めるにあたって、注意すべき点がありますか。

A 自治会の協力を仰ぎ、全戸調査を実施し、支援者を募っています。支援者を決めるにあたっては民生委員の方と一緒に要援護者の近隣住民を訪問し、支援内容を十分説明するとともに、要援護者の個人情報についても説明し、納得していただいた上で決めています。

Q 子供を訓練に参加させるための工夫や、参加者が自主的に訓練に参加することを促す「スタンプラリー方式」などの取組について、どのような効果がでていますか。

A 子供達からポスターを応募してもらい、訓練会場で表彰するほか、消防士との記念撮影コーナーを設けたことで子供の参加が増えました。「スタンプラリー方式」では訓練に対する自主的な行動が見られました。

Q 自主防災会の活動を行うにあたって、苦労したこと、課題などがありますか。

A 自治会の役員と兼務で活動してきましたが、要援護者の避難行動を支援するにあたり、自主防災会を自治会から独立させ、役員の兼務も原則廃止しました。新たに自主防災会の役員になってもらう人を探すのに大変苦労しました。今後の課題は、要援護者の避難行動支援体制のメンテナンスをしっかりとやることです。

Q 活動を長続きさせるための工夫やヒント、多くの住民に参加してもらうためのアドバイスを教えてください。

A 多くの住民に参加してもらうために、防災訓練のアンケートを全戸実施し、住民の意見を取り入れています。また、自主防災会だよりを発行し、活動に理解を深めてもらうように努めています。

支援者役が要援護者役を搬送する模擬訓練



防災啓発ポスターを子供達が作成

